

平成 28 年度 北農賞
(昭和 15 年創設 第 77 回)

○品種育成：オーチャードグラス「ハルジマン」の育成

中山 貞夫、寺田 康道、大同 久明、山田 敏彦、高井 智之、寶示戸 貞雄、
荒木 博、水野 和彦、伊藤 公一、眞田 康治、杉田 紳一 殿

(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター)

(1) 北海道の草地は越冬性の優れるチモシーが主体であるが、雑草との競合が劣ることから、雑草の侵入によりチモシーが衰退や地下茎型イネ科雑草の蔓延し、植生の悪化が問題となっている。

再生力の強いオーチャードグラスは雑草との競合力にも優れることから導入が推奨され、種子の流通量は大幅に増えている背景のもとで、平成 13 年に北海道優良品種に認定された「ハルジマン」は草地の植生改善に寄与する品種として広く普及している。

(2) 「ハルジマン」は、越冬性と耐病性に優れ、採草利用では 1 番草が多収で、マメ科牧草との混播組合せで良好な植生を維持できることから、高品質な飼料生産に大きく貢献した。ペレニアルライグラスとの混播でも利用されており、植生改善にも顕著に寄与している。

(3) 平成 23 年から 27 年迄の北海道のオーチャードグラスの種子販売量は約 90 トン(シェア約 25%)で平成 26 年の販売量は第 1 位となり、普及面積は約 8,000ha に達し、道内草地の植生改善と自給飼料の安定生産に大きく貢献している品種である。